

授業研究部(中学校)6月例会

6月12日(水)にイーブルなごやで、授業研究部(中学校)6月例会を開催しました。

今回の例会では名古屋市教育センターの 清水 智子 指導主事を講師にお迎えし、評価についてお話をいただきました。

清水指導主事から、「子どもの学びと教師の学びは相似形」というお話をいただき、生徒たちが主体的に学び続けるには、教師も主体的に学び続ける姿勢を持つことが大切であるということをお話いただきました。

次に、「評価規準」と「評価基準」の違いを確認し、実際に教科書教材である「虹の足」を使って「読むこと」の評価について考えました。また、同じ教材における「主体的に学習に向かう態度」の評価についても、例文を用いながら様々な注意点を教えていただきました。

清水指導主事からは「評価規準と評価基準(目指す生徒の姿)」を明確にして、「逆引き設計の授業」をすることの大切さを教えていただきました。



評価規準と評価基準を明確にして、逆引き設計の授業を!

【読むこと】の評価
中2の教材
「虹の足」を例に...

グループで相談して、評価をしてみましょう!



02 評価をしてみよう!

評価規準 と 評価基準

語句の詩の中での意味や印象について考えることで、詩の世界観や感動する作者の心情を捉えている。

C	B	A
語句の意味について考え、詩に込められたメッセージや感動する作者の心情を捉えていない。	語句の意味について考え、詩に込められたメッセージや感動する作者の心情を捉えている。	語句の意味について考えるとともに、表現技法の効果と関連付けながら、詩に込められたメッセージや感動する作者の心情を捉えている。

①虹の足に包まれている人たちは、そのことに気付いていないということが分かった。直喩や擬人法が使われていてよいと思った。

②「バスの中で見たのだ、虹の足を」と倒置法を用いて、その感動を強調している。幸福であることに気付かず生きている人を「虹の足に包まれている」と比喩を使って表すことで、読者に「自分もそうかもしれない」と考えさせる効果がある。

③虹の足に包まれていることが、目には見えない幸福の中で生きているということを象徴していると考えた。「乗客たちは頬を火照らせ」という表現から、虹の足に包まれた人を見ている「他人」の感動が伝わってくる。

【主体的に学習に向かう態度】の評価

私は今まで、詩を読むときに、詩のメッセージを読み取ろうとはしていましたが、使われている語句の意味に注意して読むことはあまりしていませんでした。今回の学習で、詩の中で作者が意図して使っている語句に着目すると理解が深まると気付きました。例えば、この詩では「頬を火照らせ」や「みとれた」などの語句の意味が分かると、虹の足に夢中になっている人の様子がよく分かったと感じました。

また、仲間との話し合いの中で、〇〇さんが詩のタイトルについて「虹の足、と擬人法を使ったタイトルになっていることで、虹にすっぽりと包まれた人々の様子がイメージしやすくなる」と発言したので聞いて、詩のタイトルには重要なメッセージが表現されているのだと分かりました。

これから、映画やドラマを見るときにも、せりふに用いられている語句の意味やタイトルの効果を考えながらストーリーを味わえると、より楽しめると思います。

例文①～③を用いて、上記の評価規準と評価基準に照らし合わせて、それぞれの例文が、どのような評価になるのかを参加者全員で考えました。

最後に、参加者全員で、評価とは何か(評価の本質)について考えました。

参加者からは「評価は生徒たちを成長させるためのものであるべきだと思った。」や「客観的に自分の授業を振り返るためにも正しい評価をするべきだ。」といった意見が出ました。

授業研究部は、できるだけ日ごろ先生方が感じている疑問や悩みを解決できる場でありたいと考えています。もし、授業研究部(中学校)で扱ってほしい教材や分野があれば下記までお知らせください。よろしくお祈りします。

○ 問い合わせ先: 大森中学校 熊谷

Tel: 798-2900 FAX: 799-0465 E-mail: kumagai13@nagoya-c.ed.jp

※ スズキ校務のメッセージでも構いません

○ 次回例会: 9月11日(水) 18:30~ イーブルなごや